

岡崎ホスピスケアを考える会通信

2008年3月

38号

事務局：橋詰 0564-53-3100 小野 0564-24-8518

今年度テーマ「私のたまため箱」を開いてみましょう

テーマ「私のたまため箱」を開いてみましょう

「延命治療はしないでほしい」と義母の言葉は子供たちの家族全員が承知していたことでした。その時が来ました。

しかし、母と二人だけで暮らしていた長兄と、他地で家族と暮らす妹の母への思いは大きく違っていることを知ったのです。

楽に自然に・・・と願っていた母の思いを遂げさせてあげようとした妹弟は、兄の母を慕う気持ちに負けました。兄にとつて母は息を吐いているだけで、温かい血が身体に流れているだけでかけがいのない母だったのです。

兄は聞くことのない母の眼前に写真を掲げ「桜が満開やったなあ」と旅の話をし、「うまいでえ」と隣で弁当を食べ、「大きゅうなつたなあ、かあちゃん」と私の孫を紹介しました。生かされているだけの痛々しい母の姿でしたが兄は何ともないように幸せそうでした。

台風がきた日でした。いつものように高速道路を通って病院に行く途中、海からの風で車が浮いてくるのを感じ兄に電話しました。「大丈夫、ようなつてきたわあ」。それが臨終前のあの「なかなかし時間」だったのです。長い間、屍のようにみえた母が看護師さんに「ありがとう」と言ったのです。彼女たちは驚きの声をあげ泣かれたそうです。その声を聞いた兄の顔が目につかびます。母は台風とともに逝きました。

最期まで愛する息子の思いに応えた母。生前言っていた自分の意思どおりにはならなかったけれど、あの「ありがとう」は母の心からの声だったのだろうか。人間の意思を超えたものの意思が、そう言わせたのでしょうか。

昨年度は岡崎の医療介護の勉強や施設訪問をしました。

医療崩壊・在宅介護・施設での介護。どれもが精一杯努力して人が人を看んでいます。だれも怠けてはいません。

それなのに・・・なぜ？

私たちもできることを精一杯やってみましょう。

今年度は「私のたまため箱」にもう一度記入しながら

自分と家族が大切にしていることを見つめ直したいと思

います。ご参加できない方も、家でできます。資料を送りますので、お電話ください。

橋詰清子

私が受けた
ホスピスケア

私が自身にできる
ホスピスケア

私が他の人にできる
ホスピスケア

岡崎ホスピスケアを考える会

勉強会の報告

「どうなるの？岡崎の医療Ⅰ～Ⅲ」を振り返って2月15日（金）市福祉会館

今年度テーマ「どうなるの？岡崎の医療」のまとめと会員の体験談を交えながら①今後の希望と②私たちができることは何か、を考える時を皆さんで共有しました。

岡崎市福祉保健部杉山直人さん市民病院ソーシャルワーカー柴田睦さんに来ていただき、終のすみかはどの施設まで受け入れているか、老老介護はどこまでできるか、施設がすぐ受け入れてくれるか、日本の医療介護の向上のために学校教育の現場で子供たちに教えていくことが大切なのは・・・という意見もでたりして活気溢れんばかりの質疑応答で時間がたりないくらいでした。

岡崎の医療の現状は市民病院の医師看護師が足りない、入院施設のベッドが足りない、在宅医療をしてくださる医師が足りない等の問題を抱えています。しかし介護の現状は以前よりずいぶん改善されショートステイにも入りやすくなっているようです。また小規模多機能型居宅介護施設も1件ではありますが申請がでていう耳よりのお話もお聞きしました。

市民病院に入院して困ったことがあったら先ず医療相談室のソーシャルワーカーに相談に行くこと、介護のことで困ったことがあったら地域包括支援センターか岡崎市役所介護サービス課に出向くか担当のケアマネージャーに相談することが解決の手がかりになります。

私たち市民ができることは、市議会を傍聴し今市議は岡崎市の医療崩壊や老老介護をどのように考え動いているかを知り、私たちの声を直接持っていくことも必要かも知れませんね。

一方で出来ることは、自分の最期の生き方のヴィジョンを描き日常の中で家族とよく話し合っていくことが大事ではないでしょうか。

◆ 感想

- ・自分のこととして「どう生ききたいのか」を考えていかないといけないなと強く感じました。
- ・87歳の母を抱えてこれから体験していくであろう介護生活に対して不安と共に多くの情報を耳にして、ある程度の覚悟ができつつあります。苦勞された方のお話はとてもためになりました。
- ・とても分かりやすく、これからの医療だけでなく、家族と一緒に考えることが大事だと思いました。



“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を手作りしてお届けしています。

会員外の人たちの協力もあります。日々野さんは1年かかって21枚ものエプロンを作ってくださいました。原田さんが教えてくださる刺繍技術で手縫いの私たちはピンクの花を胸元に刺し、清楚でかわいい水色の緩和ケア病棟ボランティアエプロンが完成しました。「たぶんほつれないと思うわ」・・・その言葉に“毎回洗うものだから丁寧に丈夫に縫ってきた”という気持ちがひしひしと伝わってきました。

「手作りはあたたかいねえ」とティーサービスのメンバーは言っています。次々と伝わっていく一人ひとりのやさしさがエプロンになりました。

“つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり



わたしたちは素人の集まりです。ただ聴いているだけ。

ちょっとした気づきだけで違う見方にてあったり、時間が穏やかに解決したり、この人！という人に出会ったり・・・。人間は自浄作業ができるのかも知れません。人の心の中に住むもう一人の誰かさんはすばらしいと思います。あたたかいお茶を飲みながらおしゃべりしましょう。

“緩和ケア病棟ボランティア”の報告

ティーサービス・季節の模様替え・アロマ・楽器演奏

「病も死も日常生活の中にあるもの」と賑やかなイオンショッピングセンターの中で“岡崎に緩和ケア病棟が欲しい！”と実物大の模擬緩和ケア病室をダンボールや板で造ったのは4年前でした。

室内にトイレと洗面所、窓から見える庭を作り、そこで来館者にお茶とお菓子を出しベッドの上でアロママッサージをしました。そこにみなさんが講演にきてくださり、緩和ケア病棟の必要性を語られました。

今、それがそのまま現実となって私たちの目前にある。こんな小さな会に真正面から本気で関わり、誠実に確実に動かしてくださった多くの人たちのおかげです。



◆ティーサービス（毎週金曜 13：30～16：30）

「頼んだものだけでいい。」患者さんからそう言われました。アイスクリームを頼まれた方には常温の麦茶をお出ししたら口直しになるだろう、温かいお茶にはほんの少しの甘いものを・・・と私たちは思う。しかしそれは患者さんにとって必ずしも嬉しいことではない場合もあるのです。食欲のない方にとっては注文外のは見ることでさえ苦痛なのでしょう。私たちは不安を感じながら、「部屋に入っていいよ」ともてなしてくださる患者さんに感謝しながらのティーサービスです。

◆アロママッサージ（毎週金曜日 14：30～15：30・木曜日随時）

付き添いの方にもアロママッサージをして喜んでいただいています。介護は本当に心も体もつかれるんですね。本当によくわかります。また、終わったあと看護師さんはとびきりの笑顔で「おつかれさまでした」と言ってくれます。あんなにステキに微笑むことができた・・・と皆さんに色々教わります。

◆季節の模様替え お正月から雛まつりさくら・・・冬から春を迎える思い出深い季節。患者さんや家族にとって今生きている喜びを感じていただけたらと願いながら1つ1つ模様替えをしています。



◆楽器演奏（毎月1回 金曜日 14：30～15：00）

演奏後車椅子から倒れこむようにベッドにつかれた患者さんを見、プログラムを作ったり演目を伝えたりおじぎをしったりすることをやめました。拍手するタイミングを作らないことがここでのボランティアだと気づきました。今は静かに演奏を始めラウンジに来てくださる方やお部屋で聞いてくださる方々を思いながら演奏することにしました。実際の拍手以上の拍手を心で聞いています。

◆ティーサービスとアロママッサージのために役立つようにと「傾聴」の勉強会を始めました。ご参加ください（第2金曜日 11:00～12:30）

◆ご寄付をありがとうございました 山本喜代美様 大須賀すみ様 丹下美佐子様 原田照子様

◆会費納入のお願い 今年度も会員継続をよろしくお願いいたします